

造形表現における課題設定について

— 図画工作の課題と学生の意識 —

The Study About a Setting Subject in Formative Arts

A Subject in the Art Class and University Students' Perception

若山 哲

Tetsu Wakayama

キーワード：教育方法 造形表現 図画工作 題材設定 時間設定

1. はじめに

筆者の勤務校では、造形表現に関する科目として、小学校教諭一種免許においては、教科に関する科目として「図画工作」、教職に関する科目のうち、教育課程及び指導法に関する科目として「初等教科教育法（図画工作）」を配置し、幼稚園教諭1種免許では教科に関する科目として「保育表現技術（造形表現）」「図画工作」、教職に関する科目のうち、教育課程及び指導法に関する科目として「保育内容（表現）」「教育技術論（児童文化財研究）」を配置している。また保育士資格においては保育の表現技術に関する科目として「保育表現技術（造形表現）」、保育の内容、方法に関する科目として、「保育内容（表現）」「教育技術論（児童文化財研究）」といった科目を配置している。このことから分かるように、「保育表現技術（造形表現）」「図画工作」では、主に造形活動における技術や知識の習得を目的としており、「教科教育法（図画工作）」「保育内容（表現）」「教育技術論（児童文化財研究）」では造形指導の方法や留意点について理解を深めることが授業内容の中心となっている。

小学校学習指導要領¹によれば、教科としての図画工作は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことを目的としており、意欲や喜びを感じとれる内容が求められている。初田・岩下（2003）によると、初等教育教員養成における造形課題を、

「造形要素の知識と各要素のつながりの理解」「造形実技の経験を客体化し児童の立場に置き換えて考える」「造形活動の楽しさ、意義、可能性の実感」としている。² そのためにはまず指導者自身が「制作活動を楽しむこと」、そのうえで「子どもたちの制作に興味を持って向き合うこと」の2点が重要である。指導者自身の豊かな制作体験が土台にあるうえで、造形指導を行う際の留意点としての専門的な知識や技術の習得が活かされると考える。しかしながら実際に保育者養成・教員養成に携わる中で感じることで、造形実技の科目に苦手意識を持つ学生は少なくない。これまでに、筆者の勤務校において保育者・教育者を目指す学生を対象に行っているアンケート調査では、一定の割合で、「苦手である」または「嫌いである」という回答がある。美術や図画工作について苦手意識を感じる学生が一定数いるのは致し方ないことではあるが、将来様々な形で造形活動を支援する立場になる際には、指導に必要な知識や技術の習得以上に創造することを楽しむ感性が重要である。

本研究では先にあげた造形表現に関する科目のうち実技を中心とした科目「保育表現技術（造形表現）」「図画工作」で行った9つの課題それぞれについて質問紙調査を行い、各課題の性質や時間設定が学生の意欲と、どう関係しているのか検討を行うことで、課題設定の留意点についてまとめていきたいと考える。

2. 調査の概要と方法

以下の方法で、造形課題に対する意識と時間設定について調査を実施し分析を行った。

調査方法

配布による質問紙調査による実態調査

調査対象

本学2年生「図画工作」履修学生を対象にアンケート調査を実施した。

配布数は120で有効回答数は120であった(回収率100%)。無回答の項目も分析対象とした。

調査時期2016年12月第4週

調査項目

1年次前期「保育表現技術(造形表現)」2年次後期「図画工作」において行った課題について、取り組みやすさについてと課題の時間設定について質問紙を作成して調査を行った。

課題	時間設定
誕生日カード	90分×3コマ
身に着けるものの制作	90分×3コマ
壁面構成(共同制作)	90分×3コマ
指人形・ペープサート	90分×3コマ
回転するものというテーマで制作	90分×3コマ
乳幼児を対象としたおもちゃの制作	90分×3コマ
紙皿・紙コップで制作	90分×3コマ
お店屋さんごっこのための制作とお店屋さんごっこ(共同制作)	90分×4コマ
クリスマスというテーマで制作	90分×3コマ

質問1: 取り組みやすさ

1 取り組みやすい	2 まあまあ取り組みやすい	3 やや取り組みにくい	4 取り組みにくい
-----------	---------------	-------------	-----------

質問2: 課題時間

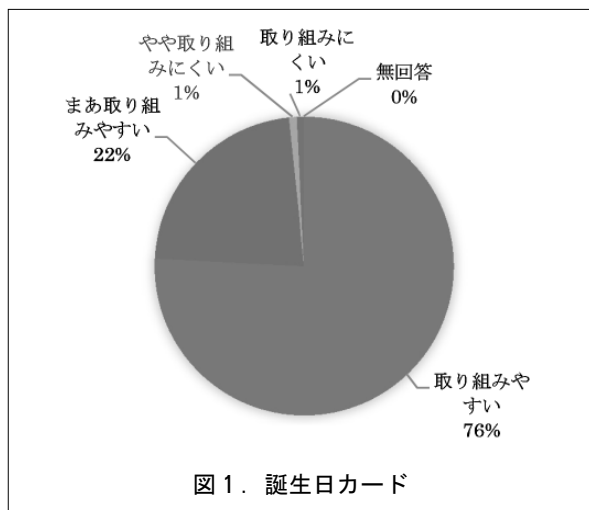
1 時間が足りない	2 やや時間が足りない	3 ちょうどよい	4 やや時間が余る	5 時間が余る
-----------	-------------	----------	-----------	---------

3. 調査結果と考察

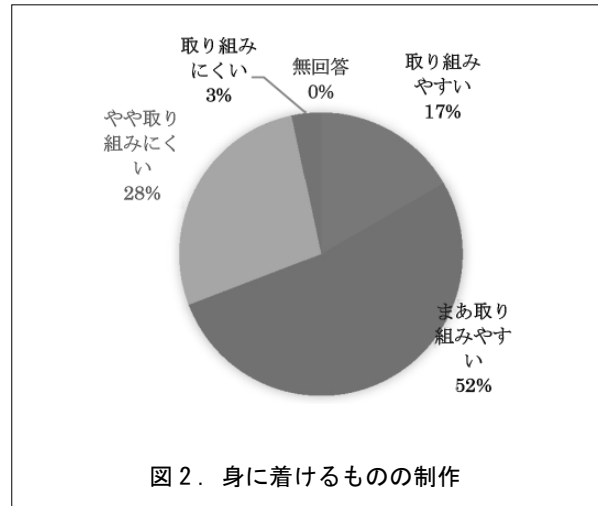
質問1：取り組みやすさについて

図1～9は質問1の課題の取り組みやすさについて各課題の回答をグラフ化したものである。予想より、課題による差が大きく表れる結果となった。各課題の性質と取り組みやすさについては以下のように考えられる。

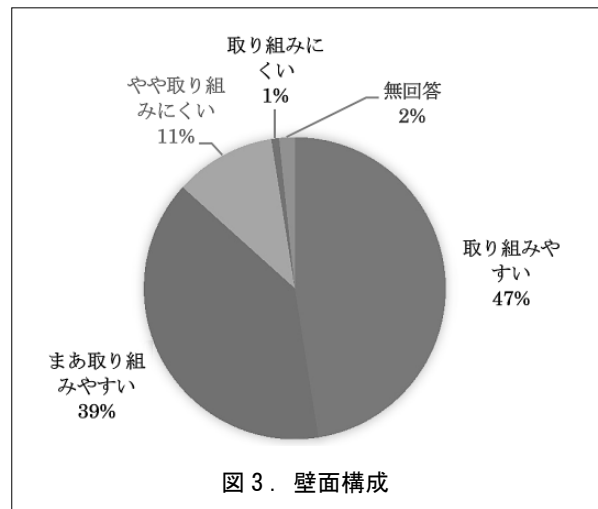
誕生日カード（図1）：「取り組みやすい」、「まあ取り組みやすい」という回答が全体の98%を占めており、ほとんどの学生が取り組みやすいと感じている。制作するものが身近で、何をやるか考えやすい。また、「誕生日カード」であるから、具体的に誰かに渡すことを想定することができ、モチベーションを持ちやすいと考えられる。



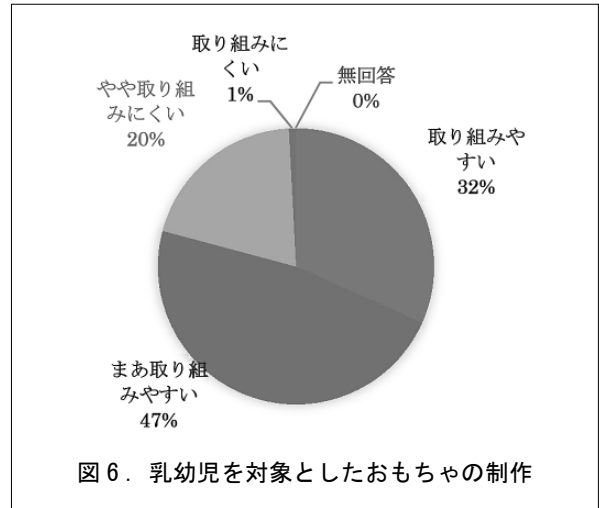
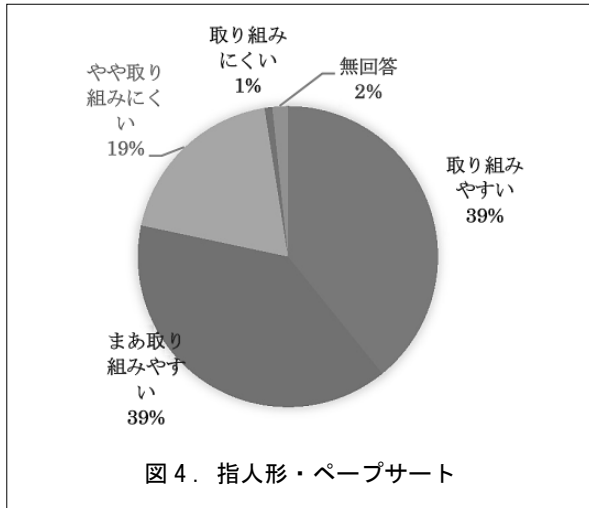
身に着けるものの制作（図2）：「取り組みやすい」17%、「まあ取り組みやすい」が52%、「取り組みにくい」、「やや取り組みにくい」の合計が31%と、3割の学生がやりにくさを感じている。ごっこ遊びなどで幼児が身に着けるものを想定して制作する必要があるが、実習経験の少ない1,2年生にとって何を作ったらよいかイメージが難しいと考えられる。



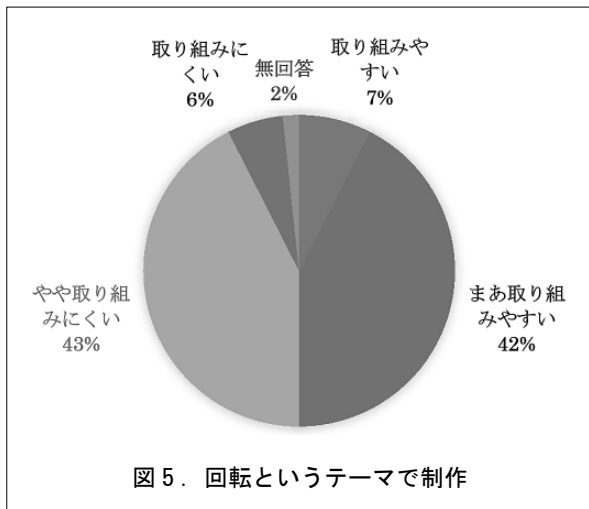
壁面構成（図3）：「取り組みやすい」、「まあ取り組みやすい」という回答の合計が86%と比較的多くの学生が取り組みやすいと感じている。課題としては季節や、幼児に適切な環境をイメージする必要がある、やや難しい課題であると考えられるが、共同制作という事で得手不得手それぞれの立場から取り組みやすいと考えられる。



指人形・ペープサート（図4）：「取り組みやすい」、「まあ取り組みやすい」という回答の合計は78%と取り組みやすい課題といえる。保育現場で使用することを考えて制作する必要があるが、絵本や物語などのキャラクターなどから、イメージを作りやすいと考えられる。

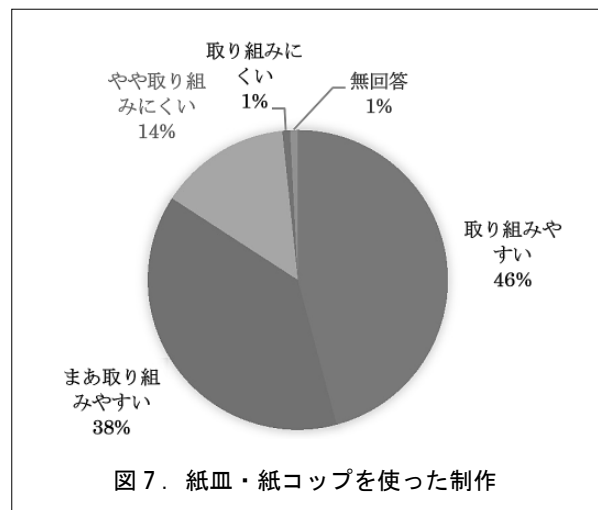


回転というテーマで制作 (図5) : 「取り組みにくい」「やや取り組みにくい」という回答の合計が49%と、半数の学生が取り組みにくさを感じている。回転するものを考え制作するというものだが、授業時の様子では、何を作ったらよいか悩む学生が多くみられた。具体的に〇〇を作るというのに比べ自由度は高いのだがそれが取り組みにくさにつながったと考える。

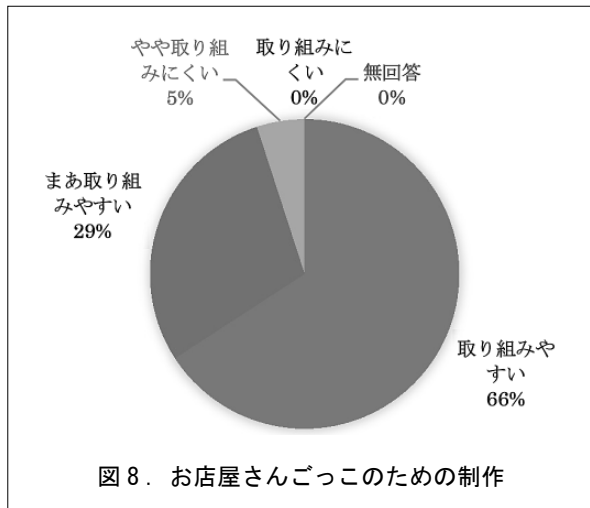


乳幼児を対象としたおもちゃの制作 (図6) : 「取り組みやすい」「まあ取り組みやすい」という回答の合計は79%と取り組みやすい課題といえる。手作りおもちゃの例が多く存在し、それらを参考にすることで取り組みやすいと考えられる。

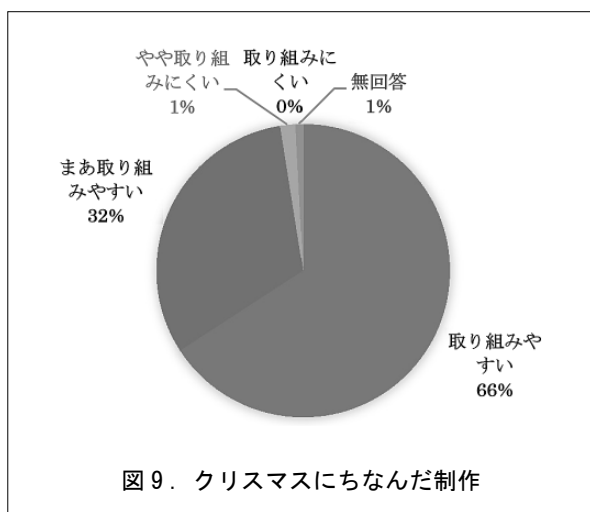
紙皿・紙コップで制作 (図7) : 「取り組みやすい」「まあ取り組みやすい」という回答の合計は84%と取り組みやすい課題といえる。作るものを設定するのではなく、材料を指定した課題でアプローチの仕方が他の課題と異なる。



お店屋さんごっこのための制作 (図8) : 「取り組みやすい」「まあ取り組みやすい」という回答の合計は95%とほとんどの学生が取り組みやすいと感じている。制作することで完結せず実際にお店屋さんごっこの演習をおこなうことや、共同制作であることなどが要因と考えられる。



クリスマスにちなんだ制作(図9):「取り組みやすい」、「まあ取り組みやすい」という回答が全体の98%を占めておりほとんどの学生が取り組みやすいと感じている。ツリーやリースなど作るものがイメージしやすいこと要因と考えられる。また、この課題では折り紙で作るツリーとサンタを紹介していることも理由として考えられる。



各課題の取り組みやすさについて比較をすると、取り組みやすいという回答の割合は、誕生日カードの制作で76% (図1)、ついで、お店屋さんごっこのための制作 (図8)、クリスマスにちなんだ制作 (図9) がともに66%、紙皿・紙コップを使った制作 (図7)、壁面構成 (図3) がともに47%、指人形・ペープサートの制作 (図4) 39%、乳幼児を対象としたおもちゃの制作 (図6) 32%、身につけるものの制作 (図2) 17%、回転というテーマで制作 (図5) 7%となった。誕生日カードやクリスマスにちなんだものなど、題

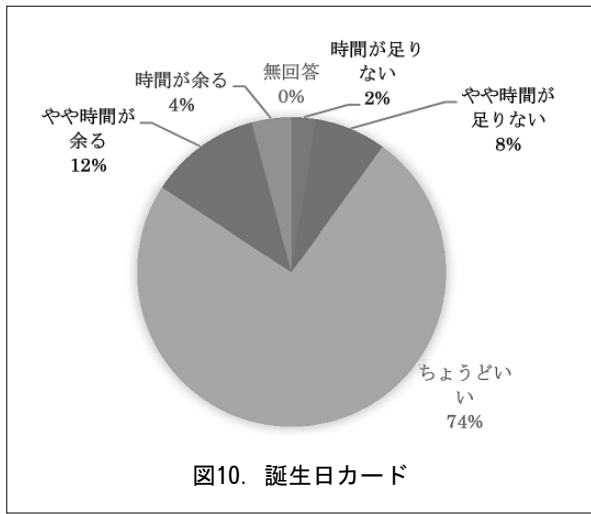
材が学生にとって身近で、作るもののイメージが比較的容易であるものは取り組みやすい傾向があるといえる。それに対して取り組みやすいという回答が少なかった回転というテーマでの制作や身につけるものの制作については、取り組みにくいという回答も他の課題より突出して多い (回転というテーマで制作5%、身につけるものの制作3%で他は1%または0%)。このことから発想を必要とする課題あるいは漠然とした課題は学生にとって取り組みにくい課題であることがわかる。お店屋さんごっこのための制作、壁面構成なども発想やアイデアを必要とする課題であるが、それなりに取り組みやすいと感じているのがわかる。その理由としてそれらの課題が共同制作であったという事が考えられる。

造形活動において学生が各課題に得手不得手を感じるのは当然であるが、取り組みやすさの調査結果からはある程度その傾向に偏りが確認された。多くの学生が取り組みやすく感じる課題の傾向として、何を作るかイメージしやすい、共同制作であるなどが挙げられる。学生がやりやすいことのみが重要ではないが、題材設定するにはその課題の性質を理解し、やりにくい学生に対してどのようなアプローチが必要かについて考えていくことが重要である。また、学生が取り組みにくいとした課題は、発想や想像力が求められるものであった。造形活動では制作行為そのものや、その技術や結果など、作ることに意識が向きがちであるが、制作に際して「構想を練る」、「アイデアを出す」といったことも重要である。取り組みにくい課題だからと敬遠するのではなく、発想や想像力を引き出すために、どのように投げかけていくかについて考えていく必要がある。

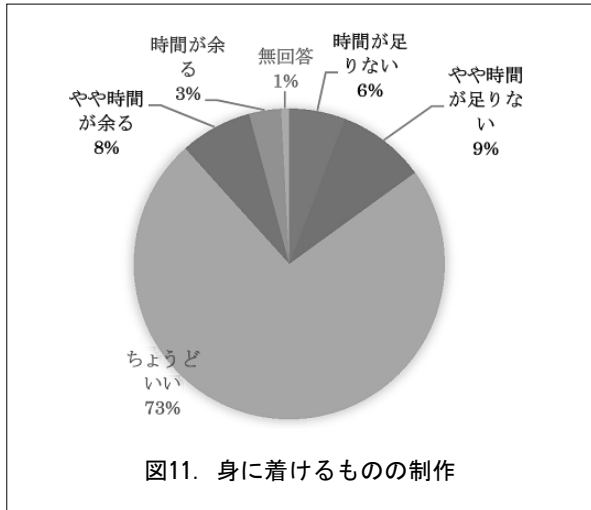
図10～18は質問2の課題における制作時間について各課題の回答をグラフ化したものである。全体としてちょうどよいという回答が多くあるが、それぞれに時間が足りないという回答、時間が余るという回答がみられた。各課題の時間設定について以下のようにまとめた。

誕生日カード (図10):「ちょうどよい」という回答が74%、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が

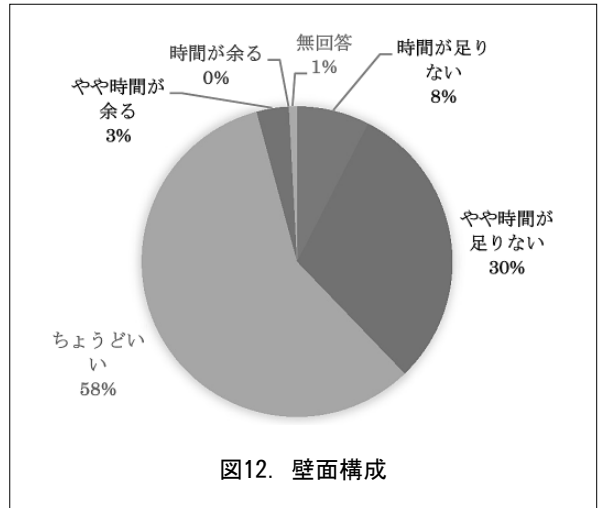
16%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が10%とそれぞれ少しずつ見られた。概ね適切な時間設定と考えられる。



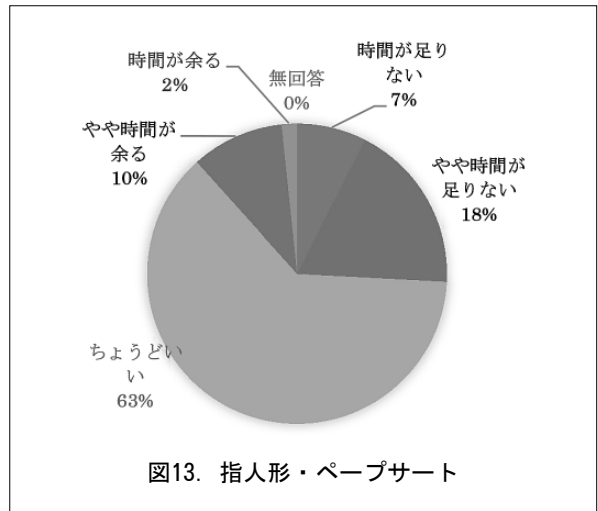
身に着けるものの制作 (図11) : 「ちょうどいい」という回答が73%で、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が11%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が15%となった。概ね適切な時間設定と考えられる。



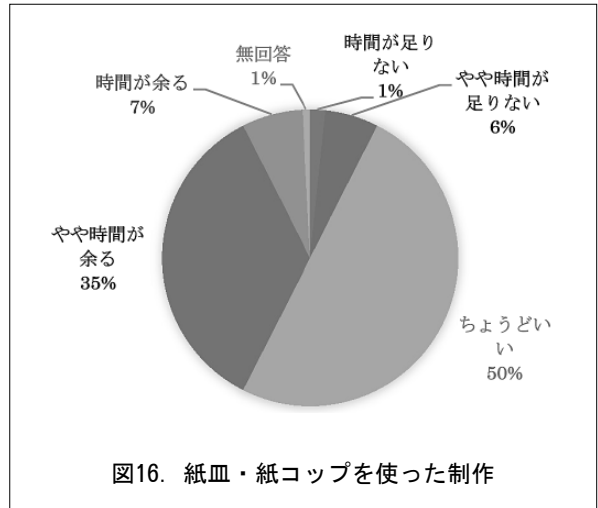
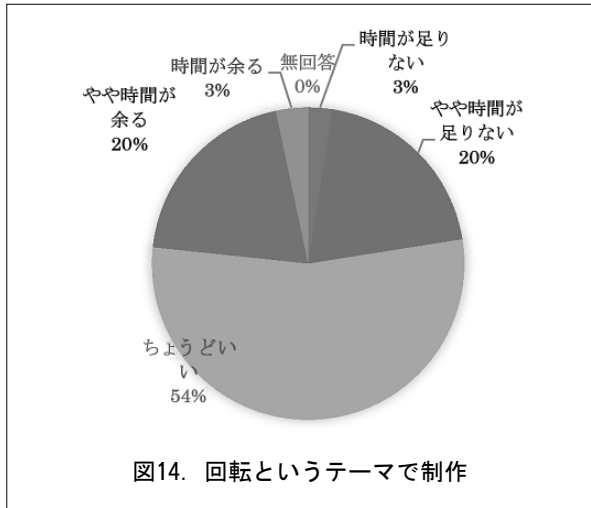
壁面構成 (図12) : 「ちょうどいい」という回答が58%で、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が38%となった。共同制作のため比較的大きな作品になることが要因と考えられる。



指人形・ペープサート (図13) : 「ちょうどいい」という回答が63%で、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が12%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が25%となった。時間が余るという回答に対して、時間が足りないという回答がやや多い結果となった。

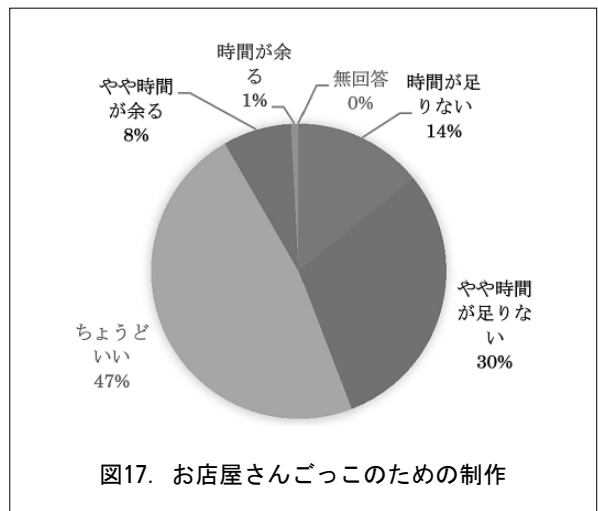
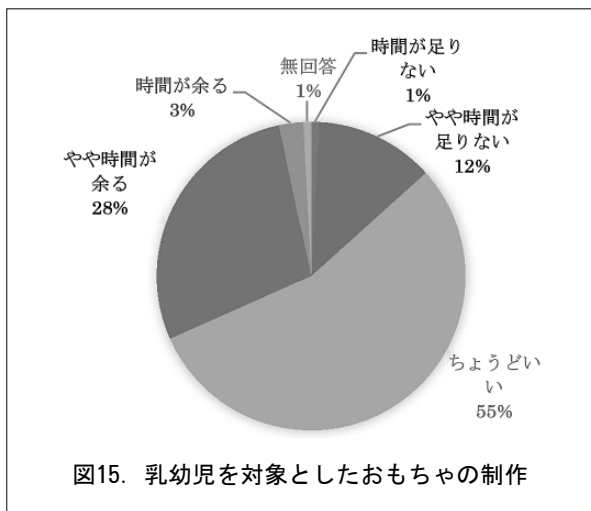


回転というテーマで制作 (図14) : 「ちょうどいい」という回答が54%で、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が25%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が23%となった。時間が余るという回答と時間が足りないという回答がほぼ同程度の結果となった。



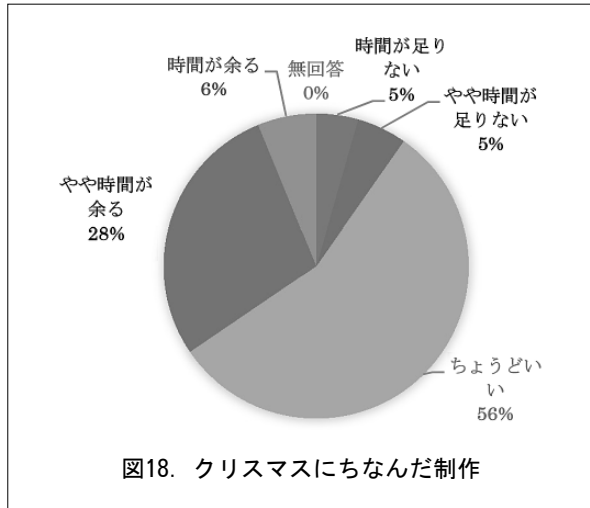
乳幼児を対象としたおもちゃの制作 (図15) : 「ちょうどよい」という回答が55%で、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が31%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が13%となっており、やや時間を持って余していることがみてとれた。

お店屋さんごっこのための制作 (図17) : 「ちょうどよい」という回答が47%で、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が9%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が44%となっており、時間が足りないという回答が多くを占めた結果となった。



紙皿・紙コップで制作 (図16) : 「ちょうどよい」という回答が50%で、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が42%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が7%となり、時間が余るとい回答が多くを占める結果となった。

クリスマスにちなんだ制作 (図18) : 「ちょうどよい」という回答が56%で、「時間が余る」「やや時間が余る」の合計が34%、「時間が足りない」「やや時間が足りない」の合計が10%となっており、やや時間が余るとい回答が多い結果となった。



制作時間についてはお店屋さんごっこのための制作が90分×4コマ、それ以外の課題は90分×3コマとなっている。制作活動において必要な時間は、制作者がその制作物にどの程度こだわるかによって当然変化するため、持て余す学生と足りなく感じる学生が一定数いることは当然である。しかしながら、調査結果からは課題により足りないケースと持て余すケースの比率が違っており課題による傾向が見て取れた。最も時間が余るという回答が多かったのは紙皿・紙コップを使った制作（時間が余る・やや時間が余るの合計42%）、ついでクリスマスにちなんだ制作（時間が余る・やや時間が余るの合計34%）でこれらについては時間を短縮するか、2コマ目、3コマ目の際に何らかの提案を行うなどの修正が必要であると考え。また、時間が足りないという回答が多かったのは、お店屋さんごっこのための制作（時間が足りない・やや時間が足りないの合計44%）であるが、授業後の感想によると、お店屋さんごっこの演習を最後にやってみて品数や看板、その他もう少し作りたかったと感じているようである。4コマの授業時間の途中で一度演習の予行練習をおこなうなど、演習の入れ方を工夫することで対応可能と考える。

取り組みやすさと時間設定について見てみると、取り組みやすさと時間のちょうどよさには明確な関連性が見られなかった。先に述べたように制作に必要な時間は制作者の性格やこだわり、その時作ろうとしてい

るものによって異なるため、ある程度柔軟に対応していく必要がある。

4. まとめ

本研究では課題による取り組みやすさ、課題の制作時間についてそれぞれ意識調査を行った。結果として課題ごと、学生ごとに取り組む意欲や必要時間が異なることが把握できた。同一の課題、時間であっても感じ方はそれぞれで、授業という形態をとって造形活動を行う以上、すべての学生にとって適切な時間、取り組みやすい課題を設定することは不可能であるが、指導計画を立案する際に必要なのは、そのことを考慮したうえで計画を立てていくことが重要である。

今回、自身の授業課題を見直してみて気づいた問題点として、現在行っている課題がすべて「何かをイメージして作る」というアプローチを基本とした課題であることが挙げられる。造形活動において「思い通りにものを構築する」「予想外のものが構築される」ということはどちらも重要な要素である。ⁱⁱⁱしかしながら「何かをイメージして作る」といったアプローチからは「予想外のものが構築される」という体験を経験しづらい。この「予想外のものが構築される」という経験は、触覚や痕跡など行為そのものを目的とした課題のほうが達成しやすい。図画工作の題材設定について（佐藤2004）は教師の自由度や裁量範囲が広く授業デザインが重要であるとしている。^{iv}今回調査を行った「取り組みやすさ」「時間設定」だけでなく、素材や題材設定、問いの立て方等、様々な要素について試行錯誤を行うことで、幅広い経験ができる授業をどう組み立てていくかについて、今後も検討を行ってきたい。

i 小学校学習指導要領解説図画工作編：文部科学省，2008年8月，pp.87

ii 初田隆 岩下硯通：実技教育センター紀要2004年1月，pp.58

iii 若山哲：福岡女学院大学人間関係学部紀要2011年3月，pp.62

iv 佐藤賢司：大阪教育大学教科教育学論集2004年，pp.75